

## 知られない神

アミール・ツアルファティ

-ギリシャ・アテネからのメッセージ-

<https://youtu.be/OXIVNsm-Krs>

アテネのダウンタウンから、シャローム。

今日はパウロの話しましょう。彼が2度目の宣教の旅で初めてアテネを訪れ、そして、彼がアテネの人々に福音を説明した、とても素晴らしい方法を見てゆきます。彼は、何より福音全体が、まずユダヤ人たちに伝えられなければならないことを思い出さなければなりません。「福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」と聖書は告げています。

**私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。（ローマ1章16節）**

ギリシヤ人が福音書の文脈で常にユダヤ人と正反対に置かれたことは、非常に興味深いことです。そして、福音が説かれた範囲は、ユダヤ人から、はるかギリシヤ人まで、その間に福音が説かれた異なる都市のすべてがありました。とても興味深いことに、アテネへのパウロの到来は、基本的にはエルサレムの地域がきっかけで、そこではユダヤ教、ユダヤ人の法律、異邦人に関するいくつかの問題について話し合われました。そのクライマックスは、福音が異邦人に伝えられることに関してでした。ここギリシヤの首都、アテネで。そして、使徒の働き17章の出来事を理解するためには、15章に戻って、パウロがどこから来たのかを理解しなければなりません。

パウロの第2の宣教の旅は、西暦49年から52年の間に行われました。3年間、パウロはエルサレムからシリア、今日のトルコの地域を通して、はるばるマケドニア、今日のギリシヤ、アテネまで歩きました。聖書は、使徒の働き15章で告げてきます。

**さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに「モーセの慣習にしたがって割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていた。（使徒の働き15章1節）**

言い換えれば、一部の人々が、イスラエル国外の異邦人の信者たちに言ったのです。彼らが救われるためには、モーセの律法に従わなければならない。そして明らかに、その外面的な表現は肉の割礼です。したがって、聖書は言います。

**それで、パウロやバルナバと彼らの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバ、そのほかの何人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。**

**（使徒の働き15章2節）**

これは、私たちが「第1回エルサレム会議」と呼ぶものです。つまり、エルサレムの人々、エルサレムの教会の前に立ちだかっていた、非常に重要な問題です。「非ユダヤ人の信者を、どうするか？」とても興味深いことに、今日、イエスを信じて福音を信じる人々の99%が非ユダヤ人です。そしてユダヤ人が、今日、キリストを信じると、それは大きな奇蹟です。しかし当時は、まさに逆でした。イエスを信じたのは、ユダヤ人の方でした。そして非ユダヤ人がキリストを信じたとき、私たちは決めなければなりません。彼をどうするか？彼は、何を守るべきか？そして、彼に関係のないものは何か？興味深いのは、彼らが訴えを提示した後、サウロとバルナバの訴えを彼らが聞いたそのあと、聖書は使徒15章13節で次のように告げています。

ふたりが話し終えると、ヤコブがこう言った。「兄弟たち。私の言うことを聞いてください。神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。預言者たちのことばもこれと一致しており、それにはこう書いてあります。『この後、わたしは帰って来て、倒れたダビデの幕屋を建て直す。』（使徒の働き15章13節から16節）

そして、彼は19節で言います。

そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるように書き送るべきだと思います。昔から、町ごとにモーセの律法を宣べる者がいて、それが安息日ごとに諸会堂で読まれているからです。（使徒の働き15章19節から21節）

そして22節では、

そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。選ばれたのは、兄弟たちの中の指導者たちで、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスであった。（使徒の働き15章22節）

そしてもちろん、今、パウロが第2の宣教の旅に出ようとしていることが分かります。しかし今回、彼は幾人かの兄弟を伴い、彼は、あまり長い間、彼らと大きな進歩を遂げていません。聖書は、彼らが実際、章の最後には、すでに別れていることを告げています。聖書は37節で告げています。

バルナバは、マルコとともに呼ばれるヨハネもいっしょに連れて行くつもりであった。しかしパウロは、パンフリヤで一行から離れてしまい、仕事のために同行しなかったような者はいっしょに連れて行かないほうがよいと考えた。そして激しい反目となり、その結果、互いに別行動を取るようになって、バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡って行った。パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて出発した。そして、シリアおよびキリキヤを通り、諸教会を力づけた。（使徒の働き15章37節から41節）

そして、そこから、はるばるシリアからトルコを通過してマケドニアに至った事を、私たちは知っています。そして第17章、今回の章は、ギリシャ北部に導き入れ、そこで聖書は告げます。

パウロとシラスは、アムピポリスとアポロニアを通過して、テサロニケに行った。そこにはユダヤ人の会堂があった。パウロは、いつものように人々のところに入って行き、三回の安息日にわたって、聖書に基づいて彼らと論じ合った。そして、「キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならなかったのです。私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストです。」と説明し、論証した。彼らのうちのある者たちは納得して、パウロとシラスに従った。神を敬う大勢のギリシャ人たちや、かなりの数の有力な婦人たちも同様であった。（使徒の働き17章1節から4節）

皆さん、いつものようにパウロはユダヤ人から始めます。彼は、まずシナゴグに入ります。彼はまず安息日に説教し、イエスがメシアであることを証明するために、常に、いつも聖書を開いています。とても興味深いのは、私はいつも言うのです。パウロは一度も新約聖書から説教していません。イエスは一度も新約聖書から説教をしていません。新約聖書の時代には、新約聖書はありませんでした。聖書が「聖書」と告げるとき、それは旧約聖書、「タナハ」でした。ですから、明らかにパウロの知識、パウロの習慣、パウロの性質は、「私は聖書を知っています。そして聖書を通して、聖書と預言、すべてを理解すると、モーセと預言者と詩篇を通して、簡単に彼を見ることが出来ます」それが、イエスがメシアであることを証明するのにパウロが用いた方法です。聖書を通して。さて、問題があります。パウロは、はるばるテサロニケまで来ていて、その町には問題がありました。彼らのことを好きではなかった人々が、実際、言いました。

世界中を騒がせてきた者たちが、ここにも来ています。ヤソ<sup>しょうちよく</sup>ンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、『イエスという別の王がいる』と言って、カエサルの詔勅に背く行いをしています。」

(使徒の働き17章6節から7節)

彼らは、それは宗教だけではなく、カイザルの権威に反抗することだ、と言って人々を扇動しようとしています。

兄弟たちはすぐ、夜のうちにパウロとシラスをベレアに送り出した。そこに着くと、二人はユダヤ人の会堂に入って行った。(使徒の働き17章10節)

皆さん、聖書は告げます。

この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、(使徒の働き17章11節)

テサロニケの何か、よくわかりませんが、食べ物か、気候なのか、その都市のユダヤ人を非常に、非常に過激にしていました。しかしベレヤの人々は、もっと健全だったと聖書は言います。そして、彼らは実際にパウロが言ったすべて…。だから、この用語があるのです。「良いベレヤ人になりましょう」パウロが言ったことのすべて。聖書は告げます。

この町のユダヤ人は…、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日聖書を調べた。(使徒の働き17章11節)

再び弟子たちは、聖書を用いてイエスを証明し、福音を聞いた人々は、それが大丈夫かどうか、聖書を見て確認していたのです。覚えておいてください。聖書です。しかし再び問題があります。パウロがテサロニケからベレヤに密かに移された後、彼らはまた、はるかアテネの港、ピレウスに、彼を送っています。そして、もちろん彼はアテネに行きました。そして聖書は今、今回の話に来ました。聖書は使徒17章16節で告げています。

さて、パウロはアテネで二人を待っていたが、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを覚えた。

(使徒の働き17章16節)

皆さん、パウロはユダヤ人です。彼はユダヤ人に説教するのに慣れていません。彼は敬虔なユダヤ人です。伝統は、もはや彼にとって重要ではない事を認めた後でさえ、しかし、それでも彼にとって、ユダヤ人であることは非常に重要なことでした。ユダヤ人であり続けることは重要なことでした。彼は決して自分の「ユダヤ性」を失っていないことを世界に伝えることは、とても重要でした。ですから、福音をいかにして誰に説くかに関する彼の全理解は、聖書が中心でした。しかし、彼は偶像崇拜の首都に来ていたのです。ギリシャ人は12の主要な神々を信じていましたが、彼らは何千もの小さな神々を信じていた、と言われていました。かつては、ギリシャのアテネでは、人間よりも偶像を見つけるほうが簡単だったと言います。それほどに多く、パウロは、そんなに多くの偶像にさらされたことはありませんでした。皆さん、理解する必要があります。ここは首都です。ここは、まさにその中心です。3400年間の歴史が記録されている都市。つまり、古典芸術、哲学、民主主義の発祥の地、詩の町です。今日の今日まで、全世界を形作っている文化です。世界中を旅すれば、今日でもギリシャ形式の建物が建てられているのをよく見かけます。私の後ろにあるあの丘の上、アクロポリス、上の都市、これはパルテノン神殿、非常に驚くことに、紀元前5世紀の神々の神殿です。しかし、それはアテナイの神殿でした。アテナイは知恵、手工芸品と戦争の古代ギリシャの女神で、後にローマの女神ミネルヴァと結びつきました。

また、皆さん、彼らがそこにいた間、パウロがそこにいた間、上に見えるのと同じパルテノンの中には、アテナ・パルテノスと呼ばれる、高さ40フィート(約12m)のアテナイの彫刻が立っていたのです。ところ

で、アテナ・パルテノス、アテナとは、つまり処女を意味します。処女の女神がすでに当時の神々を崇拜する人々の文化にあったのは、とても興味深いことです。そして、象牙と金で作られたその巨大な彫刻は、当時のとても重要で有名な芸術家、ペイディアスによって作られました。彼と彼の助手は、あそこのパルテノンに収容されていました。だからパウロが到着したとき、彼の前には処女として知られる女神が立ちはだかっていただけではありません。周りにはどこにでも偶像や神殿が、ほとんど至る所にありました。それは信じられないほどでした。つまり、パウロは神殿や神々に囲まれた都市に到着したのです。それだけで不十分と言うなら、彼は人間にも対処する必要がありました。そして聖書によれば、

さて、パウロはアテネで二人を待っていたが、町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを覚えた。それでパウロは、会堂ではユダヤ人たちや神を敬う人たちと論じ、広場ではそこに居合わせた人たちと毎日論じ合った。エピクロス派とストア派の哲学者たちも何人か、パウロと議論していたが、ある者たちは「このおしゃべりは、何が言いたいのか」と言い、（使徒の働き17章16節から18節）

非常に侮辱した言葉遣いです。彼らは、本当に彼のことを真剣に受けとめませんでした。しかし面白いことに、聖書は告げています。

ほかの者たちは「彼は他国の神々の宣伝者のようだ」と言った。パウロが、イエスと復活を宣べ伝えていたからである。（使徒の働き17章18節）

さて、念頭に置いてください。ギリシャ語の「復活」という言葉は「アナスタシア」です。彼らにとっては女神のように聞こえるのです。「イエスとアナスタシア」ですから、彼らにとっては彼の説く外国の神々は複数形だったのです。単に、「イエス」と「復活」です。しかし、彼らは何かを全く異なって理解しました。

そして興味深いのは、この2種類の人々、エピクロス派とストア派は、当時のアテネでは主要な哲学学派だったのです。つまり哲学の流派、ひとつは紀元前341年から紀元前270年の間に生きたエピクロスに従う学派。彼は、喜びと幸福が人生の究極の目標である、と教えました。「その日を生きろ。その瞬間を生きて楽しみ！」実際、何か他のことを話したり、何かをするのは、とても貴重な時間を無駄にしているに過ぎない。もう一方のストア派思想家は、同じ頃に生きていたゼノンを創設者として尊敬していました。そして彼は、感情ではなく、合理性を推進しました。彼らにとっては、感情よりも常識です。あなたは自分の感情を抑圧し、乗り越え、コントロールして、まるで、それが存在しないかのように生きなければなりません。彼らの両方が…、念のために言っておきますと、両方とも多くの神々を信じていました。唯一の神ではなく。そして、とても興味深いのが、先ほど言ったように、最初のエピクロス派の教えは、人生の究極の目標は、喜びと幸福を見つけることであり、瞬間を生き、その日を生きることでした。ところで聞き覚えがありますね？そして、彼らは言います。「明日のことや死んだ後のことなど心配するな」ですから、お分かりのように、パウロが死や復活について話すとき、彼らにとっては、「我々は、そんなことは考えない」「私たちは、それについて知りたくありません。」「私たちはその日、その瞬間を生きたいんだ」

一方、ゼノンは、神は全人類の偉大な魂であり、神はすべての人の中にいる、と教えました。だから、基本的にすべて人類は兄弟であり、すべての人は何らかの形で神の標本である、と。ところで、ゼノンに従うストア派の人たちは、道徳水準が高く、また、善良で正直な人々でした。言い換えれば、彼らは、自分たちは十分に善人だと思っていたのです。「何も必要ない。自分たちは道徳的で、良い人間だ。すべてが大丈夫だ」と。ですから、一方で、実際にその瞬間を生きることが全て、感情、喜びと幸福が全てである人たちの集団と、もう片方の思想学派は、感情は問題ではない、と考えます。「厳格で道徳的な人間でなければならない。感情やそういったものは、全て無視しなさい」ところで、両方とも、全てを創造した神がいると考えることが本当にできなかったのです。興味深いのは、彼らがパウロの前に姿を見せたとき、パウロは彼らを見て、なんとなく気づいたのです。この人たちは人気があるように見えるが…、彼らの「瞬間のメッセージ」は、周囲では流行の最先端で、彼らは、自分たちは物知りで、悟りを開いたと考え、人に教えている。パウロは

気がついたのです。彼らはみな、宗教的な人々だ、と。実際、パウロが彼らに言及したとき、彼は、アテネの人たちに言いました。22節。

**パウロは、アレオパゴスの中央に立って言った。「アテネの人たち。あなたがたは、あらゆる点で宗教心にあつた方々だと、私は見ております。（使徒の働き17章22節）**

ところで、彼はギリシャ語の“deisidaimonesterous”という言葉を使用しています。つまり、神聖なもの、宗教を尊重するという意味です。言い換えれば、パウロが言っているのは、「あなたがたは神聖なことを尊重しているようだ。あなたがたは神聖さとか、崇高な権威という考えを排除してはいない。そこで、ひとつ私に言わせてください」

**道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られていない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけたからです。そこで、あなたがた知らずに拝んでいるもの、それを教えましょう。（使徒の働き17章23節）**

私は考えていたのですが、それならパウロが話している「知られない神」とは何なのか？まず第1に、パウロは真の神を分かち合う機会として、巧みにこの祭壇を使っていると思います。当時、彼らはとても多くの神々を信じていたことが分かっていますが、見落としている神がまだある可能性をとて心配して、彼らは知られない神のためにその神殿と祭壇を持っていたのです。そして、とても興味深いことに、それは“AGNOSTO THEO”（アグノストス・テオス）と呼ばれていました。グノーシス主義、またはナルシズム（自己愛）は、そこから来ています。そして、万一分たちがその方を知らない場合のために、彼のために祭壇が必要だ、と。面白いことに、彼らは、彼の名で誓っていたのです。さて、パウロはとても賢明だったと私は思っています。彼は、このような人たちに話すのは慣れていません。彼はシナゴグに行って聖書を開き、エレミヤやイザヤから説教します。彼は新約聖書があり、メシアは来て、苦しみを受けて、死ななければならなかったと説きます。パウロは常に聖書を通してメシアを証明しました。それが今、彼は当時の世界で最も異教の偶像礼拝の真ん中にいます。彼は、どのように福音を伝えるのでしょうか。皆さんの多くも、家に帰れば思っているでしょう。「私の職場で福音を伝えるなんて、あり得ない。彼らは何も理解しない。この人たちは他のものに夢中だ。彼らはこれを信じて、彼らはあれを信じている」皆さん、言っておきますが、聖書はマタイ10章で告げています。

**また、あなたがたは、わたしのために総督たちや王たちの前に連れて行かれ、彼らと異邦人に証しをすることになります。（マタイ10章18節）**

そして、聖書は言います。

**人々があなたがたを引き渡したとき、何をどう話そうかと心配しなくてもよいのです。話すことは、そのとき与えられるからです。話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話される、あなたがたの父の御霊です。（マタイ10章19節から20節）**

聖書は、最初からイエスが予測したことを告げています。主の弟子たちは、異邦人の前に行って、福音の真理を話す、と。もちろんギリシャに来て、旧約聖書を開くことはできません。そして、「エレミヤは、新約聖書ができると言っている」とか、「イザヤは、メシアが来なければならないと告げている」とか、モーセはこう言った、ホセアはそう言った、と言うことはできません。そこでパウロは、彼の驚くべきスキルで、その瞬間を利用し、状況を利用して、周りを見まわし、そこから福音を取り上げ、人々にそれを説明するために利用できるものをひとつ見つけました。では、彼はどのように全てを説明したのでしょうか？24章17節で、彼は告げています。

この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みにはなりません。（使徒の働き17章24節）

言い換えれば、彼は、こう言っているのです。「あなたがたは、知られない神がいることを理解しているが、それは全てを創造された神です。ところで、彼はパルテノン神殿や他の寺院に住んではいません。あなたがたの偶像は、どれひとつとして世を創造していませんね？あなたは、そのことを彼らに起因することもありませんか？だから、全てを創造された神は、人間の手で造られた寺院に住んでいない」

また、何か足りないかのように、人の手によって仕えられる必要もありません。神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。神は、一人の人から…

（使徒の働き17章25節から26節）

ところで、ギリシャ語では「一つ」と言い、いくつかの訳では「一つの血潮」と言っているものもあり、他は、ただ「一人から」と言い、すなわち最初のアダムです。

神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。（使徒の働き17章25節から26節）

パウロは3つの節で、創世記の最初の11章全体を説明しています。基本的に、彼は言います。「みんな、一つのことを同意しよう。神は世界を創造された。彼は一人の人から人類を造られた。彼は残りのすべてを造り、彼らに境界と国と言語を与えた」そして、それは今日の私たちが持っているものです。基本的に、創世記の最初の11章です。私がそれを話す理由は、これです。創造論を省略しては、神を説明することも福音を伝えることもできません。一つ覚えておきましょう。創造を教えなければ、神が存在することも、確かにイエスが必要であることすら、伝えることも、あるいは確立することも、決してできません。私たちは理解しなければなりません。とても多くの革新的な教会、革新的な牧師たちのモダンな考え方は、

「7日間の創造論を信じる必要はない。私たちは創造を信じる必要もない。私たちは、ただ、人々に、彼らが罪人であり、救われなければならないことを伝えなければならないだけだ。以上！」

私には分かりません。「人間は罪人である」という主張の基礎は、創造です。それは、人類の墮落を伝える創世記1章から11章で始まり、現在、人がいかにして罪人として生まれるかに続き、そして、メシアの必要性に続きます。そのためにイエスが世に来るのです。そもそも、人は墮落した生きものだと言わないで、なぜ、だれかのところに行って、メシアが必要だと伝えるのですか？創世記までさかのぼって、そのすべての始まりである罪とは何だったのかを説明しないで。正直に認めましょう。すべての始まりは、「神の御言葉か人間の言葉か」です。神が話されたとき、彼は「これをしてはいけない」と言います。「それにさわるな。そうすれば、あなたは生きる」人が自分のやりたいことをしようと決めたとき、「私はこれにさわる」と彼は言いました。「私は、あれにさわる。確実に私は死なない」そして彼は、自ら死をもたらししました。ですから、神は、主の御言葉であなたに命を与え、人は、その言葉で、あなたに死を与えます。そして、人が彼の道を選ぶと決めたとき、死が世に入りました。死の直接の原因は？「罪」。聖書は言います。

罪から来る報酬は死です。（ローマ6章23節）

そこで今、私たちは理解しています。もし罪があり、死があるならば、罪の赦しが必要です。そして救済が必要であり、贖いが必要であり、神に戻る道が必要です。そういう事です。とても簡単です。興味深いことに、パウロは、彼ら自身の文化を通して福音を説明するという、彼の巧みな方法で続けています。彼は使徒17章28節で言います。

『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです。あなたがたのうちのある詩人たちも、『私たちもまた、その子孫である』と言ったとおりです。（使徒の働き17章28節）

私はそれを調べていると、確かに、紀元前315年から240年の間に生きていた、とても有名なギリシャの詩人、アラトスがいたのです。彼はいくつかの詩を書いていて、主要なものは2つ。そのうちのひとつは、『現象』として知られており、その『現象』は告げています。

「さあ、我々朽ちる者たちが必ず口にするゼウスから始めよう。すべての通り、すべての市場はゼウスで満ちている。海も港も彼の神聖で満ち、どこでも、誰もがゼウスに恩恵を受けている。我々は、確かに彼の子孫なのだ」

彼が、そう言ったのです。もちろん、彼はゼウスについて話しています。しかし、パウロは基本的に人々に言っています。

「ちょっと待って！あなたは、皆さんが神の子孫だと言っています。では、あなたがた人間がその子孫であるなら、どうして神が銀や金ということがあり得ますか？」

それが、アテネの人々に伝える方法です。

「確かに神は、人間が造った宮などに住まうような方ではない。また神は、金や銀で造られたものではありません」

そして、興味深いのは、使徒の働き17章で、パウロがアテネの人々に対して、見事な方法で福音を伝えたことが分かりました。次に彼は、この驚くべき、見事なものに移行します。つまり次に来るのは、彼は、アテネの人々に言っています。

**神はそのような無知の時代を見過ごしておられました、今はどこでも、すべての人に…**

**(使徒の働き17章30節)**

「すべての人」と言ってください。「すべての人」です。ユダヤ人とギリシャ人に、何の区別もありません。すべての人です。そして、彼は言います。

**今はどこでも、すべての人に悔い改めを命じておられます。(使徒の働き17章30節)**

特定の人や場所に限らず、すべての人に、悔い改めを命じておられます。ところで、イエスがカペナウムでの彼の公生涯で言われた最初の言葉は、

**悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。(マタイ3章2節)**

そして、彼は言います。

**なぜなら、神は日を定めて、お立てになった一人の方により、義をもってこの世界をさばこうとしておられるからです。神はこの方を死者の中からよみがえらせて、その確証をすべての人にお与えになったのです。**

**(使徒の働き17章31節)**

皆さん、聖書はヘブル書9章27節で告げています。人間にはただ一度死ぬことと、それから？その後には裁きを受けることが定まっている。神は言われます。神の裁きの御座の前に立ってられる人間は、誰もいない。裁きは、旧約聖書を通じて、すべての人に対して、ユダヤ人と異邦人に対しても同様に宣言されています。そこで彼は言います。「見なさい。定められた日があるのです」すごくいいですか？神が日を定めておられるとは驚くべきことです。神は解決策を送られ、それから抜け出す方法を与えられました。そして、神はあなたに言っておられます。定められた日があり、それがいつ起こるのかを、私はあなたに伝えよう。神が言っておられること以上に、あとどれだけ多くの警告、または愛の表現、懸念、神の気遣いを、あなたは、あとどれだけ必要ですか？彼は、アテネの人々に言っています。あなたがたは、とても賢い。こんなに賢いのに、どうして人が作った寺院で金や銀で造られた物を拝めるのか？あなたがたは、とても賢いのですから、あなたがたが「知られざる神」と呼ぶ方が、天を創造した神であることを理解できるはずです。あなたがたは、あなたがたが拝む何千もの神々の中で、見逃しているものがあることを正確に知っています。それなら、あ

あなたがたは本当のものを見逃しているかもしれないと恐れていることが分かるはずです。そして、その本物の神、天と地を創造された方が見過ごしておられたのです。神は、そのような無知の時代を見過ごしておられた。神は、あなたがたが、自分の道を行くことを許しておられた。しかし、いま、もはや言い訳はできません。時が来て、時の人は到着しました。メシアご自身が罪の解決策、救済と贖いを提供されたのです。そして今、私たちが、あなたがたにそのメッセージを伝えているので、あなたには言い訳ができません。このメッセージを聞いた人は誰でも、家に帰って、そして言わなければなりません。

「分かった。私は罪人だと聞いた。そして、メシア・イエスを信じれば、私は救われると聞いた。私はそのメッセージを拒否することも、そのメッセージを受け入れることもできる。しかし、私はそのメッセージを無視することはできない」

まさに、それが起こったのです。さて、興味深いことに、聖書は言います。

**死者の復活のことを聞くと、ある人たちはあざ笑ったが、ほかの人たちは「そのことについては、もう一度聞くことにしよう」と言った。こうして、パウロは彼らの中から出て行った。ある人々は彼につき従い、信仰に入った。その中には、アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ…、（使徒の働き17章32節から34節）**

アレオパゴスとは何ですか？覚えていてください。パウロは、アレオパゴスに連れて来られました。ご覧の通り、アクロポリスのすぐ下にある岩場です。ここは、かつて市議会が集った場所で、およそ30人の貴族がいました。ところで、そこでは裁判さえ行われたのです。そしてパウロは、まさにそこに立っていました。彼らはパウロを裁いたり、審判にかける事はできませんでした。他の神々を説くことは、もはや犯罪ではありませんから。しかし、かつては他の神々を説く事は犯罪だったのです。今、彼らは、ただ好奇心旺盛です。「あなたが話している、あの神々は誰ですか？」そして、彼は言います。「私は、あなたがたに、それらの神々を説いているのではありません。私はイエスと彼の復活を説いているのです」  
そして、面白い事に、聖書は告げています。

**こうして、パウロは彼らの中から出て行った。ある人々は彼につき従い、信仰に入った。その中には、アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ、ダマリスという名の女の人、そのほかの人たちもいた。**

**（使徒の働き17章32節から34節）**

あなたが行って福音を説く所は、どこでも、ほとんどの場合、大多数は拒否するでしょう。しかし、聞き、耳を貸し、受け入れて従う人は常に存在します。それらの人のために、あなたはすべての人に宣べ伝える必要があります。あなたには決してわかりません。会社に行き、学校に行き、家族のところに行き、彼らに福音を伝えると、90%は拒否するかもしれません。しかし10%のために、あなたはその100%全員に送られるのです。彼らが、これ以上言い訳をしないために、また、彼らに福音に応じる機会を与えるために。皆さんの全員が、自分が少数派であることを知っています。家族の中で、職場で、学校で、あなたは少数派です。私はいつも言いますが、あなたは決して大多数になることはありません。唯一、信者が大多数になるのは、彼らが唯一のものになる時です。それはいつですか？神が、すべてのものを新しくされる時です。新しい天と新しい地。千年王国の間でさえ、信者は多数派ではありません。とても面白いです。

それでは、まとめに入りましょう。今、私たちは、使徒の働きが語っている、世に伝えられた2つのメッセージがあることを理解しました。使徒の働き2章では、ペテロがユダヤ人の混じった群衆の前に立っていて、彼はユダヤ人に説教し、その日、3000人が救われました。そして、使徒の働き17章で、彼はギリシャ人に説教し、何人かの人が加えられました。聖書は、第1コリント1章21節から23節で告げています。

**神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが…、（第1コリント1章21節から23節）**



エルサレムのペテロにとって、それは、つまづきでした。ここでは、パウロは愚か者とされ、福音は愚かとされました。しかし覚えていてください。

### 宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです（第1コリント1章21節）

私たちは、それを忘れてはなりません。最後に、これをもって締めくくります。「知られない神」は、まだ、多くの人に知られていません。彼らは、自分は神を知っていると主張できます。彼らは、自分は神に従うと主張できます。彼らは、自分は神を礼拝していると主張できます。しかし言うておきますが、メシアを信じない限り、あなたは神を知りません。聖書は、マタイ11章27節で告げています。

すべてのことが、わたしの父からわたしに渡されています。父のほかに子を知っている者はなく、子と、子が父を現そうと心に定めた者のほかに、父を知っている者はだれもいません。（マタイ11章27節）

あなたがメシアを知っているなら、あなたは真の神を知っていて、彼は、もはや知られない神ではありません。しかし、もし、あなたがメシアを知らないなら、あなたは神を知りません。そして彼は今日でも、あなたにとっても、まだ「知られない神」です。今日、私からあなたへの質問は、あなたは、「知られない神」を知っていますか？聖書は、ピリピ人への手紙3章7節で述べています。

しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。（ピリピ3章7節から9節）

主を知っていますか？パウロは言いました。「私は主を知りたい」

私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、なんとかして死者の中からの復活に達したいのです。（ピリピ3章7節から11節）

もし、あなたが死から復活したいのなら、まず、眠ったものの初穂である方を信じなければなりません。もしあなたが、「知られない神」を知りたいなら、福音を説き、そして宣べ伝えられたことを信じなければなりません。なぜなら、パウロが言っているのです。彼は使徒で、彼はメッセージを伝える人です。その彼が、「私は彼を知りたい」と言います。それも彼を知るだけでなく、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、そしてもちろん、キリストの死と同じ状態になり、どうにかして、死者の中からの復活に達したい。（ピリピ3章10節から11節）

あなたは知られていない神を知っていますか？そう願います。キリスト・イエスは、唯一の道、唯一の真理、唯一のいのちです。そして、あなたにとって、知られていない神を知る唯一のチャンスです。

-fin-



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.01.03 (Fri)